

房同之。

永久二年十一月十八日己丑、今年主上鳥羽始有帳臺御出、御直衣、蒲、菊、御指、其儀如常、右大将、中納言、忠通、此外

〔愚昧記〕文治六年元久正月三日戊午、今日主上鳥羽御元服日也、略中太政大臣兼實藤原入自西第

二間母屋廂到西御屏風下、取御冠、出御帳、西間、東折入自御帳間、欲步過此間、到東、跪帳臺下、奏祝詞、

了昇帳臺奉加御冠退下

〔經俊記〕建長三年六月廿七日丙辰、今日遷幸新造閑院日也、略中今日立御帳等、先日被勘日時了、先

是大夫史淳方以下、行事官等參會、任吉時、午二點、略中先立濱床、其上敷兩面御座二帖、東西其上立

御帳懸帷、東西北面垂之、南面卷之、

〔春湊浪話〕塗籠

又塗籠といふ名あり、是をば寢殿の廂に作る事なり、略中今の俗に納戸物置といふ所に同じ、

納戸といふ名も、むかしは帳臺の一名なり、鎌倉殿中の差圖にみへたり、今も其唱残りて、殿中

の帳臺を御納戸構といふなり、

〔名目抄雜物〕御帳帷ミチャウノカタビラ

〔安齋隨筆前編〕一帳帷 帳ノ帷ハ、タレヌノと訓て、家の入口に張る、幕のやうなる物なり、

〔源氏物語明石〕四月になりぬ、衣がへの御さうぞく、み帳のかたびらなど、よしあるさまにまいつ、

〔源氏物語鈴虫〕よるの御帳のかたびらを、よおもてながらあげて、うしろの方に法花のまだら

かけ奉りて、まろかねのはながめに、たかくことくしき花の色をと、のへて奉れり、

〔雅亮装束抄〕もやひさしのてうどたつる事

おなじきまのもやに、略中その、ちかたびらをかへし、かたびらのてい、かべしろにおなじ、八

帳帷